

大学運動部活動におけるリーダーシップの研究

—リーダーシップと適応感の関係—

青竹 悠里 (東京学芸大学)

1. 目的

本研究の目的は、大学運動部において主将のどのようなリーダーシップが部員の適応感を高めるのかを明らかにすることであった。

2. 研究方法

1) 対象者

大学女子運動部活動4団体(A部、B部、C部、D部)

2) 調査方法

吉村(2005a)のリーダーシップ尺度を基に、主将のリーダーシップについて20項目の質問をした。この尺度は「技術指導」、「人間関係調節」、「統率」、「圧力」の4因子から成り立っている。それぞれの項目について、6段階評定で回答を求めた。

また、吉村(2005a)の先行研究を基に、適応感についても20項目の質問をした。この尺度は「部活動への積極的行動」、「主将のリーダーシップへの満足」、「部の雰囲気への満足」の3因子から成り立っている。それぞれの項目について、6段階評定で回答を求めた。

3) 分析方法

各リーダーシップ因子と各適応感因子でT検定を用いて分析した。また、部活動ごとに平均値を算出し、比較・分析する方法を用いた。

3. 結果と考察

1) 主将のリーダーシップと適応感全体

「人間関係調節」において1%水準で有意差が見られ、「技術指導」において5%水準で有意差が見られた。適応感はこれら2つと関係していると思われる。

2) 主将のリーダーシップと適応感因子

「部活動への積極的行動」において、有意差は見られなかった。「主将のリーダーシップへの満足」において、1%水準で「人間関係調節」、5%水準で「統率」に有意差が見られた。「部の雰囲気への満足」においては、1%水準で「人間関係調節」、5%水準で「技術指導」に有意差が見られた。

3) 各部活動のリーダーシップと適応感

リーダーシップ因子の「技術指導」と「人間関係調節」の平均が全体平均より高いA部、B部の部員の適応感が高かった。

4. 結論

本研究では、部員の適応感を高めるためには「人間関係調節」が最も関係していることが明らかになった。また「技術指導」も並行して積極的に行っていくことで、部員の適応感をさらに高めることにつながる事が明らかになった。しかし主将が「技術指導」と「人間関係調節」を過度に行うと部員の自主性が低くなり、適応感が低くなる事が予想される。そのため、主将は部員の自主性を高められるようなリーダーシップが必要であると考えられる。

5. 主な参考文献

- 1) 野上真(1997)「大学生運動部主将のリーダーシップ効果を規定する諸要因」実験社会心理学研究 37,203-215
- 2) 三隈二不二(1978)「リーダーシップ行動の科学」,有斐閣,pp284-292
- 3) 吉村斉(2005a)「運動部活動における利己的表現と主将のリーダーシップの関係」心理学研究 75,536-541
- 4) 吉村斉(2005b)「運動部活動の適応感に対する部員諸対人行動と主将のリーダーシップの関係」教育心理学研究 53,151,161